

THE **A** MUSEUM

Vol.12-1 第34号 2017. 6.15

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore



左から時計回り：葛飾北斎筆「鯉亀図」（埼玉県指定文化財）、海北友雪筆「一の谷合戦図屏風」右隻（埼玉県指定文化財）

土佐光起筆「一の谷合戦図うち熊谷直実図」、狩野惟信筆「四睡図」 ※いずれも部分、当館蔵

平成29年（2017）現在、当館には12万点を超える資料が収蔵されています。その中に江戸時代以前の日本の美術品（古美術）が数多く含まれていることをご存知でしょうか。

今回の企画展では、当館の収蔵資料から選りすぐりの美術品を多数展示します。初めてご来館いただく方には名品と出会う感動を、常連の方には、最近

ご無沙汰なあの美術品や、初めて目にするものに触れる驚きをお届けします。

しかし、ただの名品展とあなごなるなかれ！本展は美術鑑賞初心者、特に子どもたちに向けた展示です。「古美術って何？」「どうやって見たらいいの？」という疑問に答える仕掛けをたっぷりご用意して、皆様のご来館をお待ちしております。



企画展

くらべる古美術

見て考える美術のひみつ

平成 29 年
7/15(土)
▶ 8/31(木)

博物館や美術館で、美術品を前に途方にくれてしまったことはありませんか。せつかく見に来たのに、何が何だかわからない。「美術はありのままに楽しむもの」と言われても、そもそもどこをどうやって見たらいいかわからないから、ちっとも面白くない。

本展覧会ではそんな悩みにお答えすべく、「かたち」、「色」、「モチーフ（何が表現されているか）」の三つをテーマに、さまざまな美術品をくらべる楽しみをご紹介します。ただ単純に比較するのではなく、それぞれじっくり丁寧に鑑賞するために、どこをポイントとするべきなのかを「鑑賞のヒント」として提示します。ヒントを手がかりに、様々な美術品にこめられた“美術のひみつ”を考えながら楽しむ展覧会です。当館の名品のひとつである「たいへいきえまき太平記絵巻」に登場するさんたい三体の「いるいもの異類の者」が水先あんないにん案内人となって、じっくりくらべて考える、美術のひみつを探る旅に皆様をいざないます（図1）。



図1 県指定文化財「太平記絵巻 巻第二」(当館蔵)と「異類の者」(当館オリジナルキャラクター)

※太平記絵巻の上記場面の展示期間は7月15日～8月6日

I くらべるかたち

第1章では、古美術の形そのものの美しさやおもしろさを感じていただくためのウォーミングアップです。美術品の中には様々なかたちが隠れています。かたちを探して、それぞれをじっくりくらべていく中で、ひとつひとつの美術品の味わい方が見えてきます。ここでは○、△、□といったかたちを題材に、それぞれに隠されたひみつを探っていきます（図2）。



図2 八卦十二支文鏡（当館蔵）

II くらべるカラー

次に、普段当たり前のように認識している“色”に焦点をあてます。「赤」、「青（緑）」、「金」などという名で総称される色をじっくりと観察することで、驚くほど表情豊かな古美術の色彩感覚を知ることができます。たとえば、図3の二つの壺。写真ではどちらも大差のない茶色い壺のように見えますが、実はよくよく見ると赤や緑といった美しいカラーが隠れています。ぜひ展示室で実際に見て、この二つの壺の色合いの違いも見つけてみてください。



図3 左：古丹波四耳壺 右：古常滑大壺

※（いずれも当館蔵）